

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43775

往電(日程)

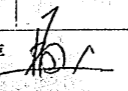






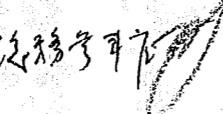



新 田邊の政治課へ送る

要字 5 部

発電係 総第 22768 号
昭和 97年 7月 31日 19時 00分発

電信係

(分類)

略平	第 1420号 (LTF) (即表訂子政)
大臣 	主管 アメリカ局長 
事務次官 	参事官 
外務審議官 	北米課長 
官房長	主任
起案 昭和 97年 7月 31日	
起案者  電話番号 442	
(協議) 総務省 	
(回覧)	
在 米 朝 海  大 平	大臣発
電 報	在大 大公使館 秘領事
件名 大臣の訪米に関する件	
伝電券  号  通し	

電信案(甲)

外務省

回覧番号

4128

1. 本大臣国連迎会出席のため訪米の際

ラスク國務長官と会談の機会を得べく、いず

れ日時確定次第右アレンゲテ訓電すべ

き。場々は先方の都合もあるべきにつき

貴地又はニューヨークのいずれでも差支えない

と考えている。

2. 上記國務長官との会談がニューヨークと存

する場合において、今次渡米の機会に

貴地へ赴き米政府の幹部及び有力議員等

と面談を得べく(貴使主催の晝餐会等に

おいて会見するが適当かと思われる。)と

考へられ、本大臣の

電信案(乙)

外務省

貴地訪問の通程に伺しなると重見せらるは
 回覧ありぬい。

極秘

館長符號扱

電信写

総第 22768 号 昭和 37 年 7 月 31 日 19 時 00 分発

附 第 1420 号 館長符號扱 主管 米北

大臣 総
 政務次官
 事務次官
 外務審議官
 官房長

在 米 朝海大使 宛 大平 大臣発

在 在 宛

件名 大臣の訪米に関する件

1. 本大臣国連総会出席のため訪米の際ラスク國務
 長官と会談の機会を得たく、いずれ日時確定次第
 右アレンダ方訓電すべきも、場所は先方の都合も
 あるべきにつき貴地又はニューヨークのいずれで
 も差支えないと考えている。

2. 上記國務長官との会談がニューヨークとなる場
 合においても、今次渡米の機会に貴地に赴き米政

電信写

府の幹部及び有力議員等と面談を得べく（例えば
貴使主催の屋敷餐会等において会見するのが適當
かと思われる。）ことと考^有えられるところ、本
取組の貴地訪問に関しなれば貴見あれば回電ありた
い。

GB-7

外務省

秘

電信写

総第 24243 22219	昭和 37 年 8 月 4 日 19 時 10 分発
機 密 第 1705 号	主管 欧西
大 臣 官 房 政務次官 事務次官 外務審議官	新 藤 田 閣 組 長 官 組 長 官
在 米 隔 の と お り	宛 大 平 大臣宛
転 在	宛
件 名	第 1 / 1 回 在 歐 公 館 長 会 議 に 関 す る 件 (機 密)
送 達 合 格 第 1 / 6 7 0 号 に 関 し 第 1 / 4 1 5 号 (ア メ リ カ) 第 1 / 4 4 号 (ガ ー ナ) 第 1 / 1 1 号 (イ ラ ン)	
公 館 長 会 議 議 程 次 の と お り。	
1 お 本 国 の 主 要 外 交 案 件 お よ び 国 内 情 勢 に 関 す る 説 明	
2 欧 州 情 勢 を 中 心 と す る 國 際 情 勢 判 断	
3 ヲ イ ツ 、 マ ル シ ン 諸 國 を 中 心 と す る 東 欧 情 勢	

GB-6

外務省

電信写

係

2 欧州統合の動向

(1) 欧州統合の政治面における諸問題（政治統合、核武装、NATO、欧州と米國との関係など）

(2) 欧州統合の経済面における現状

(3) 英國のEEC加入問題

(4) EECと第三國との関係

（中立國の連合問題、アフリカ諸國および中近東諸國との関係、東欧諸國との関係、アジア諸國の動き、米國政府のEEC対策など）

Ⅲ わが國外交政策の検討

1 対西歐外交

2 対共産圏外交

3 対アジア外交

4 核兵器実験、軍縮問題

5 欧州諸國との経済問題（特にわが國のEEC対策およびEECとわが國の関係を含む）

並01=EECおFV

GB-7

外務省

電信写

本編めて先 ソ連、ギリシャ、ポーランド、チェコスロヴァキア、ハンガリー、ユーゴスラヴィア、オーストリア、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、フィンランド、ドイツ、ハンブルグ、ベルリン、スイス、ジュネーブ、オランダ、ベルギー、フランス、イタリア、ヴァチカン、スペイン、ポルトガル、連合王國、アメリカ、カナダ、イラン

GB-7

外務省

アメリカ前
北米課長

極秘

電信写 本電の保管及パラは厳重にされたい

総第 23309 号 昭和 37 年 8 月 6 日 16 時 30 分発
23314

贈 合 第 1711 号 緊急 主管 欧西

大臣	総人	米長	長長
政務次官	人	参事官	次長
事務次官	会	米北	経総
外務審議官		局長	経総
官房長		局長	経総

在 英、フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ各公館長 大平 大臣宛

転 電 在 アメリカ 連 朝 海 大 使 員 臨時代理大使 宛

件名 大平大臣訪欧の件(申し入れ)

1. 本大臣は国連総会に出席の後、在欧公館長会議に出席、これを主宰するとともに、その前後、別電合第1713号の日程により、責任国に立寄ることを予定している。(右日程は飛行機スケジュールの変更に伴い、若干の変更をみる可能性あり。)
2. 今回の訪欧は、時間的な制限もあり、また總

電信写

訪欧の前でもあるので、公式訪問ではないがその機会に各国政府関係者と接触、意見の交換を行いたく、強固メッセージ、共同コミュニケは行わずまた儀礼的な行事はできるだけ避けることとする。

2. 貴使においては、上記2の点をお含みの上、別電日程に基づき、本大臣訪問の意向を正式に責任国政府に対し申し入れありたく、結果緊急回電ありたい。

4. なおこの頃にはニューヨークにおいて NATO 外相会議が開催されるとの情報もあり、又 10 月 6 日 万国首脳会議の開催も予想され各国政府首脳との会議には適当な時期とは思われないが本大臣の都合もあり日程の大幅な変更は不可能に付き右をお含みおきありたい。

本大臣の訓令として別電と共に伊よりソアチカンへ送附ありたい。

別電とともにアメリカ、国連に転電した。

本電あて先 英、フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ

極秘

電信写

本電の保管及バラは厳重にされたい

総第 23315 号 昭和 37 年 8 月 6 日 16 時 30 分発
23316

贈 合 第 1712 号 主管 欧西

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
官房長

米 朝海大使 宛 大平 大臣宛
在 国連 星臨時代理大使

転 在 宛

件名 大平大臣訪欧の件(申し入れ)

往電合第1711号転電

GB-6

外務省

秘

電信写

総第 23319 号 昭和 37 年 8 月 6 日 17 時 10 分発
23324

贈 合 第 1713 号 主管 欧西

大臣
政務次官
事務次官
外務審議官
官房長

英、フランス、ドイツ、イタリア、 大平 大臣宛
在 ベルギー、オランダ各公館長

米 朝海大使 宛
在 国連 星臨時代理大使

件名 大平大臣訪欧の件(日程)

- 9月24日 ニューヨーク発、ロンドン着
(着しくは25日早朝ロンドン着)
- 9月25日 英側と会談
- 9月26日 午後ロンドン発パリ着
- 9月27日 公館長会議主宰、仏側と会談
- 9月28日 公館長会議主宰、仏側と会談
同日夜パリ発、デュッセルドルフ
経由ボン着

GB-6

外務省

電信写

9月29日	独側と会議
9月30日	ボン船ローマ着
10月1日	イタリ側と会議
10月2日	午前ツアチカン訪問 午後ローマ船フラスセル着
10月3日	ベルギー側と会議 五里の委員会訪問
10月4日	午後フラスセル船ヘーグ着
10月5日	オランダ側と会議
10月6日	ヘーグ着
10月7日	帰国

GB-7

外務省

秘

電信写

総第	23568	号	昭和	37	年	8	月	8	日	17	時	00	分	発
略	第 1469 号		主管	國政										
大	臣													
政	務次官													
事	務次官													
外	務審議官													
官	房長													
在	米朝海大使宛											大平		大臣宛
転	在													
件名	大平大臣の国連第17回総会出席の件													
国連あて往電第434号転電。														

GB-6

外務省

秘

電信写

総部 23567 号 昭和 37 年 8 月 8 日 17 時 00 分発

第 434 号 主管 國政

大臣	總	米長	歐長
政務次官	人	森田	森田
事務次官	会	米北	歐田
外務審議官			
官房長			

在 國連代表 韓印臨時代理大使 宛 大平 大臣宛

在 米 朝海 大使 宛

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

現在のとこる本大臣は 9 月 / 5 日当地発のアト
ル経由 (/ 泊) / 7 日 ニューヨーク着、 / 8 日よ
り國連の國連總會に出席の予定である。

ついでに一般討論開始時期等につき、事務局に
確認のうえ、一般討論開始当日の適当な機会 (従
例の例に従い) ないし 4 番目を希望) に本大臣が
出席しうるより然るべく手配し置かれたい、結果回電ありたい。
米に転電した。

GB-6

外務省

要写 5 部

宛電係 源 総部 23585 号
昭和 37 年 8 月 8 日 19 時一分発

電信課 (分類)

略 略 平 第 1470 号 (LTF) 館務係

大臣 主任 起案 昭和 37 年 8 月 8 日

政務次官 阿部川局長

事務次官 参事官 佐

外務審議官 主任 龍 米 課長 佐

官房長 佐 起案者 電話番号 443

FX

本電の保管及バラ
にされた
い

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

田中 佐 政治課 佐

在 米 朝海 臨時代理 大平 大使 宛 大平 大臣宛

在 國連 柿坪 代理大使 大平 大使 宛 総領事

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

8 44

信課 電檢 済 閣

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

件名 大平大臣の國連第 7 國總會出席の件

又は貴地(ワシントン)発訪の
途につく予言である

2. ついては右期間中貴地又は
ニューヨークにてラスク長官と会談
しなく右会談がアレンジあり

3. 貴電の真は前記会談の
支障なき限り24日のランダムに
て準備あり

4. 亦前記又及の3について
国連宛往電が434号の国連
における本大臣スピーチの日時
~~(会談の開催の決定の見込み)~~との洞

①
②
③
④

本日発電の旨

整を要するところ前記又の申入
れに当たってはこの真お含みの上
処理あり

また本大臣としてはラスクの会
談は前記1の期間中に実現する
ことを強く希望するも万一之が
不可能な場合は当地出発を
早め先ずワシントンに立寄ること

を検討せざるを得ないとも
考へおるにつき会談の大体
の概見送みなりにも早目に
回電あり

①
②
③
④

口連の転覧し

電信写

館長符號扱

極秘

総第 23585 号 昭和37年 8月 8日 9時00分発

暗 第 1470 号 館長符號扱 主管 米北

大臣 秘書官 事務次官 外務審議官 官房長
総 国長 歐長
長 參政 西英

在 米 朝 海 大 使 宛 大 平 大臣宛

電 在 国 連 柿 坪 臨 職 代 理 大 使 宛

件名 大臣訪米の件

往電第1420号および貴電第1724号に関し
1. 現在のところ本大臣は15日当地発シアトル泊の上17日ニューヨーク着18日より国連総会に出席24日夕ニューヨーク又は貴地(フレンジシップ)発訪欧の途につく予定である。
2. ついては右期間中貴地又はニューヨークにてラスク長官と会談したく、右会談方アレンジありた

電信写

い。

3. 貴電2の点は前記会談に支障なき限り24日のランチオンとして準備ありたい。

4. なお前記2および3については国連あて往電第434号の国連における本大臣スピーチの日時との調整を要するところ、前記2の申入れに当つてはこの点お含みの上処理ありたい。

また本大臣としてはラスクとの会談は前記1の期間中に実現することを強く希望するも万一これが不可能な場合は当地出発を早め先ずワシントンに立寄ることを検討せざるを得ないとも考えおるにつき会談の大体の見込みなりとも早目に回電ありたい。

国連に転電した。

GB-7

外務省

要字 部

発信係 8 総第 23586 号
昭和 37 年 9 月 8 日 19 時 分発

電信案 (分類)

略 略 平	第 435 号 (LTP)	電信案
大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリ局長 7 参 事 官 出 主任 荒 木 謙 三	起案 昭和 37 年 9 月 8 日 起案者 面 丸 電話番号 443

EX

本電の保管及バラにされた

8 45



野田 行

在 国連 新 代理 大臣 宛
臨時代理 大使 宛
給 領 事

電 報 在 大 公 使 宛
總 領 事

件 名 大臣 訪 米 の 件

米 宛 往 電 第 1470 号 転 電

GB-1

外務省

回電番号 4286

秘

電信写

総第	238/2	号	昭和	37	年	8	月	10	日	19	時	00	分	発
略	第	1487	号	主管	国政									
大臣														
政務次官														
事務次官														
外務審議官														
官房長														
在	米	朝海大使	宛	大平	大臣宛									
転	在												宛	
件名	大平大臣の一般討論演説日取りの件													
国連あて往電第442号転電														

GB-6

外務省

高冷中務官

秘

電信写

総第	238/1	号	昭和	37	年	8	月	10	日	19	時	00	分	発	
略	第	442	号	至急	主管	国政									
大臣	総	政長	国社	岡崎大使											
政務次官	米長	参事官	国管												
事務次官	参事官	欧西	国科												
外務審議官	米北														
官房長															
在	国連代表部	柿坪臨時代理大使	宛	大平	大臣宛										
転電	在	米	朝海大使												宛
件名	大平大臣の一般討論演説日取りの件														
貴電第9/2号の2に関し 第6番目に確定されたい。 米に転電した。															

GB-6

外務省

要写 3 部

発電係 総第 23900 号
昭和 37 年 8 月 11 日 16 時 20 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略平 第 235 号 (LTP)

大 臣	主管	起案	昭和 37 年 8 月 11 日
政務次官			
事務次官			
外務審議官			
官 房 長		起案者	電話番号
			443

田代 昭 ¹³
岩本 ¹⁴
政治部長 ¹⁵

在 ~~東京~~ ニューヨーク 金山 臨時代理 大臣 宛
大 公 使 宛
総領事

電 報 在 米 大 公 使 宛
総領事

件 名 大平大臣訪米の件

普通電 2543 回

- 現在のところ林大臣は 15 日当地着 16 日の
上 17 日 ^{貴地} ニューヨーク着 18 日 国連総会に
出席 (総会に於けるスピーチは 6 日につき 20 日

GB-1 外務省 回覧番号 4314

午後 2 時 20 分 前 迎いと見込もれる。 24 日
ニューヨーク ~~28 日~~ ワシントン (フレア ショップ 香港)
寄附金の進捗も調べられている。

2. 右期間中に ~~米下便~~ ワシントン 又は
ニューヨークで ~~米下便~~ 米官との会談を希望
米下便に ^(3.3.6 日付未定) 米下便と相合せ中 ~~24 日~~

ワシントンに於ける米下便主催の会議 ^{と予定している}
3. 追々冒頭書費に於ける日米両業会議所及び日米
ワシントンに於ける米下便主催の会議 ^{と予定している}

前記 1. 2. の備考の上
米 ~~米下便~~ に転電して
口述の転電あり

GB-3 外務省

11 67
信 課 済
電 報 閱

要字 部 電信係 第 23901 号
 昭和 37 年 8 月 11 日 15 時 20 分発

電信課長 略平 電信案 (分類 16)

略平	第 1497 号 (LITF)
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 主任 北米課長 起案者 電話番号 田原 443

田原局長
参事官
政治課長

在 米 朝海 臨時代理 大臣 宛 大平 大臣發
~~田原 代理~~ 総領事

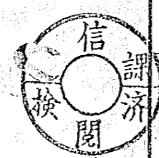
電 報 在 大公使 宛 総領事

件名 大平大臣宛の件

ニョーコウ宛電報方 235 号転電

GB-1 外務省 回覧番号 4315

11 68



要字 部 電信係 第 24117 号
 昭和 37 年 8 月 14 日 2 時 35 分発

電信課長 略平 電信案 (分類 1507)

略平	第 1507 号 (LITF) 儀長宛電
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 主任 北米課長 起案者 電話番号 田原 443

14 82

(協議) 経済省
 (回覽) 田原局長
 参事官
 政治課長

在 米 朝海 大公使 宛 大平 大臣發 総領事

電 報 在 大平 大臣 宛 大平 大臣發 総領事

件名 大臣ラマノ合渡の件

貴電才 1778 号に關シ

電信案(甲) 外務省 回覧番号 4378

1. 9日 島^{外務}審議官より 他用にて来

訪せる エマソン公使に對し 往電中

1470号 2の旨を 参考迄に 伝之あり

たこと 13日 エ 島に對し

ラスフ 長官は 9月24日 ^{場所未定なるも} 本大臣と

午餐に招待し 互き 意向を 旨連

絡越した

2. よつて 貴方において 前記確

認ありとく その上は 右受諾方

回答ありと

3. 追つて その場合は 前記 往電の

の 貴使主権の ランケルは 遺憾

乍ら 取止めることとす

口運に 転電した

要字 部 発電係 第 24118 号
昭和 37 年 8 月 14 日 2 時 35 分 発

電信課長 (分類) 電信案

略平	第 448 号 (LTP) 米通	起案 昭和 37 年 8 月 14 日
大臣	主管 アメリカ局長	起案者 田代 443
政務次官	参事官	
事務次官	主任 北米課長	
外務審議官		
官房長		
<p>田代 柳田 臨時代理 大 公 使 宛 大 臣 発 総領事</p>		
電 報 在	大 公 使 宛 総 領 事	
件 名	大臣訪米の件	
	米通電報 1507 号 奉 復	

GB-1 外務省 回覧番号 4371

14 83

要字 3 部 発電係 第 24196 号
昭和 37 年 8 月 15 日 20 時 40 分 発

電信課長 (分類) 電信案

略平	第 240 号 (LTP)	起案 昭和 37 年 8 月 14 日
大臣	主管 アメリカ局長	起案者 田代 443
政務次官	参事官	
事務次官	主任 北米課長	
外務審議官		
官房長		
<p>田代 柳田 臨時代理 大 公 使 宛 大 臣 発 総領事</p>		
電 報 在 米	大 公 使 宛 総 領 事	
件 名	大臣訪米の件	
	電報 254 号 及び 往電 235 号 に関し	
	1. 今回 大臣訪米に 当り 2 日 ほど 後の 欧州 訪問が 相当 繁忙と して 2 日 程度 予定 され たり	
	2. 2 月初旬 南 米 米 穀 会 の ため 渡 米 の 機会	

GB-1 外務省 回覧番号 4359

本電の保管及
取扱い
下
15 52

極秘

電信写

本電の保管及バラは厳重にされたい

総第 24196 号 昭和 37 年 8 月 15 日 20 時 40 分発

暗 第 240 号 主管 米北

大臣 総 長 参 官
政務次官 務 参 官
事務次官 務 参 官
外務審議官
官房長

在 ニューヨーク 金山 総領事 宛 大平 大臣発

経 在 米 朝 海 大 使 宛

件名 大臣訪米の件

賞電第 254 号及び往電第 235 号に關し

1. 今回の本大臣訪米に當つてはその後の欧州訪問が相当繁忙となることが予想されまた12月初旬閣僚委員会のため渡米する機会もあるので、国連總會出席及びラスク長官との会談を主眼としその他の行事は最小限に止めたいと考えている。

GB-6

外務省

ものゝち、国連總會出席及びラスク長官との会談

を主眼としその他の行事は最小限に止めたいと考

えている

2. 貴地におきの行事は(1)貴地日本人商業会議

所及び日本人クラブ共催の歓迎会は要請ありとせし

日時にかゝりては22日下森大蔵大臣歓迎会と同一の機

会に之差をえし。(2) Gapan Society 等おきの

招待の場合には18日(国連開会日に国連

関係行事は、^{ナホ} 貴地におきの国連関係行事には

19日及び21日を当てる予定)を予定とせし(1)の

但しボリスリスビーが要する如き行事は、その

進行に、意向である

米に転電は 国連に転報あり

GB-3

外務省

電信写

2 貴地における行事としては(1)貴地日本人商會
 会館所及び日本クラブ共催の歓迎会は受贈する
 こととし日時については22日大蔵大臣の歓迎
 会と同一の機会にて差支えなく、(2) Japan Society
 等よりの招待ある場合は18日(國連開会日に
 て國連関係行事はない旨、なお國連関係行事に
 は19日より21日を当てる予定)を予定する
 こととしたい。
 但しポリシイスピーチを要する如き行事はなる
 べく避けたい意向である。

米に転電した。
 國連に転報ありたい。

GB-7

外務省

要字 部

発信係 総第 24197 号
 昭和 37年 8月 15日 時 00分 発

電信課長

電信案

(分類)

略平	第 1516 号 (LTP)	起案 昭和 37年 8月 14日
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 主任 北米課長	起案者 知光 493
本電の保管及バ ー 53 是 田原 参事官 政治課長		
在米	朝海	臨時代理 大 公 使 宛 総領事 大平
電報	在	大 公 使 宛 総領事
件名 大 臣 訪 米 の 件		
シ - 2 - 7 宛 電 報 不 受 電 号 転 電		

GB-1

外務省

回覧番号

4360

要写 部 宛電係 第 24199 号
 昭和 37 年 8 月 15 日 20 時 50 分発

電信課長 (分類) 電信案 第 93 号 (LTF)

暗 明 平 主管 第 93 号 (LTF) 起案 昭和 37 年 8 月 15 日

大臣 藤崎 参事 官 北米課長 主任 北米課長 起案者 田中 電話番号 493

政務次官 事務次官 外務審議官 官房長官

臨時代理 大公使 宛 藤崎 大平 大匠発
 総領事

電報 在 米 田建 大公使 宛 総領事

件名 大臣訪米の件

1. 本大臣は国連総会出席のため目のこり次の定
 2. 貴地を由シ一ヶ月へ赴く予定あり

9月15日 21:30 東京発 NW-6
 (7-11-4 経由)

(Anchorage) Ar 28:35 155ch

GB-1 外務省 回電番号 4363

人事課長 官房長官 参事官 北米課長 田中 電話番号 493

54



15日 ~~10:45~~ 155ch NW-10
 Seattle Ar. 16:35 } 貴地着
 16日 ~~22:30~~ 155ch UA 872

2 ついては9月15日夜適当に、ホテルに在、大臣用として
 24-1 及び催費用としてシングル4の予約あり
 3 16日は貴地にお入り21在紀傳を簡単に見出し
 4 本お貴地は単に経由するのみであること何等か
 行事等の申し出があったらなるべく辞退しお返事
 2あり 念のため
 米 田建に転電にて

GB-3 外務省

24200

要写 部 発電係 第 24201 号 昭和 37 年 8 月 15 日 20 時 50 分発

電信課長 電信案 (分類)

暗 略 平 第 1775 号 (LTP)

大 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長

主管 アメリカ局長 参事 主任 北米課長

起案 昭和 37 年 8 月 15 日 起案者 電話番号 由 443

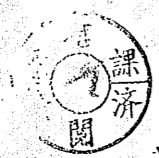
在 米 朝海 大平 宛 臨時代理 大平 宛 大平 宛 総領事

電 報 在 大平 宛 大平 宛 総領事

件名 大臣訪米の件

シトル宛電報の件

15 55



GB-1 外務省 回覧番号 4364

秘

電信写

総第 24684 号 昭和 37 年 8 月 21 日 19 時 00 分発

暗 第 1553 号 主管 欧西

大 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長

総 人 会 米 島 米

在 米 朝海 大平 宛 大平 大平 宛

電 報 在 仏 萩原 大使 宛

件名 第 1 / 1 回 在欧公使長会議出席者の件 (アメリカ)

貴局第 1780 号に關し
中印を得ないものと認める。
フランスに転電した。

GB-6 外務省

25058
 発電係 ① 総第 25058 号
 昭和 37 年 8 月 21 日 22 時 1 分 発

要字 部

電信案 (分類)

略平	第 1822 号 (LTP)
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主任 米北 起案者 藤 電話番号
	起案 昭和 37 年 8 月 21 日

本電の保管及バ
 重にされたい

在 国連 柿坪 (臨時代理 大公使 宛) 大平 大臣 兼
 江ノク 金山 (総領事)

電 在 大公使 宛
 報 総領事

件名 大臣訪米の件

米お己才 1590 号 転電

GB-1 外務省 回覧番号 4530

24-94

25032
 発電係 ① 総第 25032 号
 昭和 37 年 8 月 24 日 21 時 31 分 発

要字 部

電信案 (分類)

略平	第 1821 号 (LTP)
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主任 米北 起案者 電話番号
	起案 昭和 37 年 8 月 24 日

本電の保管及バ
 重にされたい

在 国連 柿坪 (臨時代理 大公使 宛) 大平 大臣 兼
 江ノク 金山 (総領事)

電 在 大公使 宛
 報 総領事

件名 大臣訪米の件

米来電才 1909 号 (21001) 転電

GB-1 外務省 回覧番号 4531

22

組
不
元

館長符号扱

極秘

主管課長へ

電信写

本電主管、配布先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡をう

27 2100 / 晴 米 北
7/31 / 8月22日18時20分発
本 自 8月20日07時17分着
大 平 大 原 朝 海 大 統

大臣訪米の件

オノラオガ (館長符号扱)

往電オノラオガに關し

22日回答有様書の内容をみると、3によればラスク長官は9月26日はニューヨークに居ることには必ず確実とをうた。従って貴大臣との年終はニューヨークに於いて行われるべく、また右は貴大臣主催のものとしてラスク長官は了解している由。差当つては右にて貴大臣の日程を決定するとしかるべしと存せられらるると、以上の新日程に基づき貴大臣の当地再来訪日程を決定の願ひ決定の上は

2
12
(三瓶)

17 8月 日 電 済

館長符号扱

極秘

主管課長へ

電信写

本電主管、配布先等に関し御意見あれば直ちに電信課検閲班に連絡をう

内閣電あり。 (3)
配布先 大臣、次官、参事、局長、米局長、米参、總米北

0
0
0
0

外務省

極 秘

電信写

総第 25032 号 昭和 37 年 8 月 24 日 22 時 15 分発
25033

暗 合 第 1821 号 主管 米北

大 臣
政務次官
事務次官
外務審議官
官 房 長

在 国連、ニューヨーク各公館長 宛 大 平 大臣宛

在 在 宛

件名 大臣訪米の件

米来電第1909号(21001)転電

GB-6

外務省

本電の保管及パ
は厳重にされ

発信部 総第 25039 号
昭和 37 年 8 月 24 日 22 時 00 分発

電信案 (分類)

略 平 第 1591 号 (LTF)

大 臣 主管 アメリ力局長 起案 昭和 37 年 8 月 23 日
政務次官
事務次官 参事官
外務審議官
官 房 長 主任 北米課長 起案者 電話番号 11443

在 米 朝海 臨時代理 大臣使宛 大臣宛
総領事

在 在 大 平 大臣宛
総領事

件名 大臣訪米の件

9月15日 21:30 東京 (NW-6)

08:55 アパルツシ着

10:45 アパルツシ着 (NW-10)

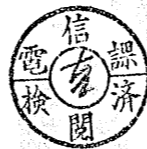
GB-1

外務省

回覧番号

4541

24 50



	16:35	シフト着	一泊
16日	午前	シフト着	21 既傳覽会見学
	23:00 22:30	シフト着	(NW 7月2)
17日	06:35	シフト着	
18日~22日		国連	
22日	夜	シフト着	日人商業会議所 及日中共同推進 会(田中不載大田と同期)
	夜	シフト着	7シフト着
23日	夜	7シフト着	シフト着
24日	晝	シフト着	シフト着
	22:00	シフト着	(BOAC 50%)
			国連シフト着に転電した

GB-3

外務省

25040
発電係 総第 25041 号
昭和37年8月21日 22時00分発

要字 部

電信案 (分類)

暗略平	第 1823 号 (LTF)	起案 昭和37年8月24日
大臣	主任	
政務次官	米北	
事務次官		
外務審議官		
官房長	主任	起案者 姓名 電話番号
在	国連 柿坪 シフト 金山	臨時代理 大公使宛 総領事
電報	在	大公使宛 総領事
件名	大臣訪米の件	
	米あて才1591号 転電	



22-95

GB-1

外務省

回覧番号 4532

要号 3 部
 発電係 総第 25057 号
 昭和 37 年 8 月 22 日 15 分 発

電信案 (分類) 37.8.24

第 1590 号 (LTP) (附録付行政)

大 臣 菅 野 首相
 政務次官 松本 正徳
 事務次官 藤田 正典
 外務審議官 松本 正徳
 官 房 長 菅 野 首相

主管 田中 局長
 主任 北米 課長

起案 昭和 37 年 8 月 23 日
 起案者 田中 局長
 電話番号 443

田中 局長
 松本 正徳
 藤田 正典
 政治課長

在米 朝海 臨時代理 大 臣 宛 大臣 発
 総領事 宛 氏平

松本 正徳 田中 局長 藤田 正典 政治課長
 大 公 使 宛 総領事 宛

件名 大臣宛米の件

貴電 1909 号に因り

24 日ニ一ヨクにおいし大臣主催の午会
 を行はせらるる事
 米連統の上場新米然ハク午会におき

GB-1 外務省 回覧番号 4489

岡崎大使

24 89
 本電の保管及バラ
 は徹重にされた

リハ、その範囲は当方は杯臣及び貴使程後の
 秘め小人敷といたし、食後引こ續き新野内
 会議に繼續ありと希望あり

2. 目下のこ三港米日程別電 1591 号のこり
 貴地訪問は静養のためと注意あり

3. 随員等決定は未だ追電あり

冒頭貴電とこり、国連 ~~代表部~~ 及び ~~一ヨク~~
 に電 ~~した。~~

25168

要字 3 部

発信係 佐 総第 号

昭和 37.8.25 日 19 時 0 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 平	第 97 号 (LTP)	起案 昭和 37 年 8 月 24 日
大臣	主管 外務局長	起案者 田原 443
政務次官	参事官	
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 参事官	
官房長		

田原局長
参事官
政治課長

25 55

24 94



13 41

在 米 国連 藤崎 臨時代理 大 公 使 宛 大 臣 發 總 領 事

電 報 在 米 国連 大 公 使 宛 總 領 事

件 名 大臣訪米の件

往電第93号に因り

1. 今般の訪米に當つての随行者次の通り
高橋局長 竹内 島内 若 参事官 南地 秘書官
2. 正副元代議士 福井 順一 を 私人の資格で同行

GB-1 外務省 回線番号 4547

せしめるとして、その方針をシグナルと通すことあり
ない
3. シグナルの状況及び量地における日程案
回電あり
4. 冒頭往電1のスケジュール中量地分は16日
23:00 分のNW-30に変更して
米及び国連に転電して

GB-3 外務省

25149~

要写 3 部

宛電係 総第 25151 号
昭 37 8 25 日 6 時 31 分 発

電信課長 電信案 (分類)

暗 平	合 第 1835 号 (LTP)	起案 昭和 37 年 8 月 24 日
大臣 菅	アメリカ局長	起案者 角 電話番号 443
政務次官	参事官 松	
事務次官	主任 北米課長	
外務審議官		
官 房 長		
転送参考 田中 政治課長 人事課長 菅 政治課長 200-政治課長		
在 米 田 運	朝海 田 崎	臨時代理 大 公 使 宛 大 區 發 給 領 事 大 平
電 報 在		大 公 使 宛 總 領 事
件 名	大臣訪米の件	
1.	今般の訪米に当つての随行者次通り 高橋局長 竹内 島田 各参事官 南池秘書官	
2.	その元代議士 福井 順一と東京出奔 時利 欧州を由 歸国して同行せしめる 大 平 443	

25 53



1341

大平正樹 (昭 35 年 慶大卒 神崎製紙会社入社)
~~野田社に休職中~~ (24才) は 目下 中南米旅行
 中 9月17日 二 - 三 - 5 に 到着 する こと 予定
 二 - 三 - 5 に 到着 する 米 国 と 高 小 沢 同行 せし
 め する こと あり かつ 高 小 沢 同行 せし
 兩人 共に 個人 の 資格 で 同行 する こと 正式 の
 行 事 等 には 希 望 せ ぬ こと 要 求 され かつ 高 小 沢
 37 (2) カ テリ 又は 昨 例 の 内 輸 の 行 事 等 には
 参加 し 得 ない 様 配 慮 願 望 あり
 (3)

要写 3 部
 発電係 1/2 総第 25169 号
 昭和 37 年 8 月 25 日 17 時 20 分発

電信課長 電信案 (分類)

暗 略 平	第 1841 号 (LTF)	主管 アメリカ局長	起案 昭和 37 年 8 月 29 日
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長		参事 官 出	主任 北米課長 田中 443

回連石 号
 参事官 出
 政治課長

在 米 回連
 臨時代理 大 公 使 宛 大 臣 發
 総領事 大 平

電 報 在 大 公 使 宛
 総領事

件 名 大臣訪米の件

シロ川宛に宛てる 97 号取送

25 56
 24 05



要写 3 部
 発電係 1/2 総第 25148 号
 昭和 37 年 8 月 25 日 16 時 30 分発

電信課長 電信案 (分類)

暗 略 平	第 1598 号 (LTF)	主管 アメリカ局長	起案 昭和 37 年 8 月 24 日
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長		参事 官 出	主任 北米課長 田中 443

回連石 号
 参事官 出
 政治課長

在 米 朝海
 臨時代理 大 公 使 宛 大 臣 發
 総領事 大 平

電 報 在 大 公 使 宛
 総領事

件 名 大臣訪米の件

往復合米 1815 号に回し

22日 貴地に赴き 本臣 (及び 出帆 正樹) は
 貴使 仰申し出のとおりに 公邸に宿泊するに
 こと 了 進行者 (竹内 豊内 及び 南地) 及び 福井



おめ貴地道当正行ルロシグル4の訂約しおかん

に

GB-3

外務省

電信写

矢野

秘

総第 25001 号 昭和 37 年 8 月 24 日 20 時 10 分発

第 610 号 主管 歐西

大臣
 政務次官 藤、人、会
 事務次官 藤、人、会
 外務審議官 米、橋、三、北
 官房長

在 佐 藤 原 大 使 宛 大 平 大臣発

伝 達 在 英、法、伊、マルギー、オランダ 各公使宛

件 名 第11回在欧公使長会議本省側出席者の件

在欧第11回公使長会議に
 在欧公使長会議に、本大臣のほか、副経済局長、
 法蘭西駐留長、竹内アメリカ副参事官、木本西歐副
 長が出席する予定。
 英、法、伊、マルギー、オランダに電報した。
 伊よりワシントンに連絡ありたい。
 その他、ワシントンに電報した。

GB-6

外務省

要字 3 部
 宛電係 外電 総第 25380 号
 昭和 37 年 8 月 28 日 17 時 00 分 発

電信案 (分類)

略 号 平 第 255 号 (LTF)

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長	主任 下川内局長 参事官 北条課長	起案 昭和 37 年 8 月 28 日 起案者 角谷 電話番号 443
---------------------------------------	----------------------------	---

政治課長
1000

在 米 一 一 一 金山 臨時代理 大平 大臣發
 去公使 宛
 総領事

電 報 在 米 (報電) 日連 (報電) 大公使 宛
 総領事

件 名 大臣訪米の件

22 日 夜 米 地 別 ワシントン へ 赴 く 予 定 の 中
 (往復合才 1823 号 参照) 飛行機 の 都合 あり
 同 夜 行 ぶ べし 予 定 の 米 地 日 人 商 業 会 議 所
 及 び 日 本 クラブ 共 催 の 懇 話 会 の 時 間 (開始 及

GB-1 外務省 4574

28 40
 信 課 濟
 電 檢 關
 1630

が終了時内) 種類 (7 月 会 議 や V 型 7° ショ ン ぶ
 11 号) 及 び 場 所 以 下 折 込 回 電 あり べし
 米 報 電 日 連 報 電 あり べし

要字 4 部
 発信係 総第 40604 号
 昭和 37.8.29 日 22 時 10 分 発

電信類
 略平 1624 号 (LTP)
 大 臣 主管
 政務次官
 事務次官
 外務審議官
 官/局長
 主任 北米課長
 参事官
 アメリカ局長
 起案 昭和 37 年 8 月 28 日
 起案者 田島 443
 臨時代理
 大 公 使 宛 大 臣 發
 總 領 事 宛
 在 米 朝 海 天 平
 電 報 在 大 公 使 宛 總 領 事
 件 名 在 欧 公 館 長 会 議 に 関 し 資 料 作 成 の 件
 付 電 第 1553 号 及 び 付 電 第 1508 号 に 関 し
 在 欧 公 館 長 会 議 に お い て は 冒 頭 合 電 の 議 題 に
 つ き 討 議 さ れ 且 右 議 題 中 中 欧 州 情 勢 を
 中 心 と し 国 際 情 勢 判 断 の 各 項 目 に つ い て は
 GB-1 外 務 省 回 覧 番 号 4575

D
 29.69
 1950

特ニ貴任国政府の政策乃至情勢判断が討議
 の重要な基礎の一つであると考へられる
 ついては以下右項目に於て貴任国政府の政
 策乃至情勢判断等と密接な関係を取りもつて
 協和の基盤として(東京)大臣に随行し訪欧
 竹内参事官(22日大臣と共に貴地を訪問する
 定)に午後ありたい

要字 3 部
 発電係 209 総第 25832 号
 昭和 37 年 8 月 29 日 7 時 30 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 平	第 258 号 (LTF)	起案 昭和 37 年 8 月 29 日
大臣 菅野 栄一郎	主管 アメリカ局長 菅野 栄一郎	
政務次官 菅野 栄一郎		
事務次官 菅野 栄一郎	参事官 菅野 栄一郎	
外務審議官 菅野 栄一郎	主任 菅野 栄一郎	起案者 菅野 栄一郎 電話番号 443
官房長 菅野 栄一郎		
田邊 昭吉 菅野 栄一郎 政治課長		
在 米 朝海	臨時代理 大公使 宛 菅野 栄一郎 総領事	大臣 菅野 栄一郎
電 報 在	大公使 宛 総領事	
件名	大臣訪米の件	
	貴電 285 号 2 に 関し	
	差支 あり	
	回連に 転報 あり	
GB-1	外務省	回覧番号 4565

30 93
 信 課 済
 電 検 関
 1945
 37.8.30

要字 部
 発電係 17 総第 25815 号
 昭和 37 年 8 月 30 日 20 時 30 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 平	第 1634 号 (LTF)	起案 昭和 37 年 8 月 30 日
大臣 菅野 栄一郎	主管 アメリカ局長 菅野 栄一郎	
政務次官 菅野 栄一郎		
事務次官 菅野 栄一郎	参事官 菅野 栄一郎	
外務審議官 菅野 栄一郎	主任 北米課長	起案者 菅野 栄一郎 電話番号 443
官房長 菅野 栄一郎		
在 米 朝海	臨時代理 大公使 宛 菅野 栄一郎 総領事	大臣 菅野 栄一郎
電 報 在	大公使 宛 総領事	
件名	大臣訪米の件	
	三上 謙吉 電 293 号 転報 (経 済 21618)	
GB-1	外務省	回覧番号 4605

30 96
 信 課 済
 電 検 関
 1945

要字 3 部
 発信係 第 25834 号
 昭和 37 年 8 月 30 日 21 時 40 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 第 99 号 (LTP)

大臣 菅野 起案 昭和 37 年 8 月 30 日

政務次官 藤崎 局長

事務次官 伊藤 事務

外務審議官 主任 藤崎 起案者 電話番号 443

官房長 主任 藤崎

SEP. 10. 1962

情文局長 報道部長 奥田 藤崎

在 沖 藤崎 臨時代理 大臣 苑 大平 大臣 苑

電 在 米 朝 治 大臣 苑 総領事

件名 大臣訪米の件

貴電 97 号 に関し

1 貴方日程案にて結構である

2 16日 14時以降は 午前 11時 迄 (場内) 午後 1時 迄 (場外) まで

15日 午後 5時 迄 午後 5時 迄 午後 5時 迄

GB-1 外務省 回覧番号 4586

C
C
C

C
C
C



1945

既に午会に招待を受けることあり

晩会に招待を受けることあり

3. 15日 飛行場における記者会見 午後 5時 迄

当局の要望によるものとの趣意あり。会見に際し特に当方において心得べきことありは回示あり

に

冒険費と共に米に転電した

GB-3 外務省

C
C
C

C
C
C

要写 部
 発電係 格 総第 25835 号
 昭和 37 年 8 月 30 日 21 時 40 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 略 平	第 1636 号 (LTF)	主管 アメリカ局長 参事官 北米課長	主任 北米課長	起案 昭和 37 年 8 月 30 日 起案者 田花 443
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長				
在 米 朝海 臨時代理 大 公 使 宛 大 平 大臣 務 総 領 事				
電 報 在 大 公 使 宛 総 領 事				
件 名 大臣訪米の件				
ソウルに駐在する 99 号電報				

GB-1 外務省 回覧番号 4604

30 95
 信 課 済
 電 検 関
 1945

要写 2 部
 発電係 員 総第 26525 号
 昭和 37 年 9 月 6 日 16 時 05 分 発

電信課長 電信案 (分類)

略 略 平	第 1680 号 (LTF)	主管 アメリカ局長 参事官 北米課長	主任 北米課長	起案 昭和 37 年 9 月 5 日 起案者 田花 443
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長				
在 米 朝海 臨時代理 大 公 使 宛 大 平 大臣 務 総 領 事				
電 報 在 大 公 使 宛 総 領 事				
件 名 大臣訪米の件				
往復 1591 号に因り 23 日夜 貴地 行 21:00 着の EAL 22:08 着の EAL Air Shuttle を利用しにせし。同機の陸揚げ				

GB-1 外務省 回覧番号 4675

6 21
 信 課 済
 電 検 関
 1405

事前予約は当地には不可能につき、貴地にて当日
 座席(本大臣、竹内、島内、南地、福岡及び正樹
 の計6人分)確保し、^{21時}様午配~~あり~~要ありは
 下記
 以下一ツツのスケジュール(本大臣)に連絡の
 上、^{21時}午配あり、^{21時}以下一ツツのスケジュール
 本大臣が当地に本社にも連絡せしめ、予定
 記
 New Orient Express Inc
 New York Office
 Room 3804 SEAGRAM Bldg.
 375 Park Ave. New York 22
 電話 PLAZA 2-3366
 代表者 Yuzo eseki

GB-3

外務省

要字 2 部
 発信係 湯 総第 26524 号
 昭和 37 年 9 月 6 日 16 時 05 分 発

電信課長 (分類)

略 略 第 536 号 (地)
 大 臣 菅 野 龍 夫
 政 務 次 官 藤 田 龍 男
 事 務 次 官 松 本 功 一
 外 務 審 議 官 北 米 課 長 官
 官 房 長 主任 田 中 隆 夫
 起案 昭和 37 年 9 月 5 日
 起案者 電話番号 443

政治課長

在 国 連 田 崎 臨時代理 大 本 使 宛 大 臣 發
 総 領 事 大 臣

電 報 在 大 公 使 宛
 総 領 事

件 名 大臣訪米の件

1405

往電合才 1823 号に開し。
 22日祝貴地より7時30分に本館に帰し、22:00
 貴地発 23:12 7時30分着のEAL Air Shuttle
 を利用し、本館に帰る。同機の座席の事前予約は当地

GB-1

外務省

4676

0300



10月は不可能につき、貴地に当日座席(車内、竹内
 篤内、南地、福井及び正樹の計6人分)確保
 しよう様、貴地エゼント(新千代田)に連絡
 の上、然るに午配めいい、
 10月当地車社より連絡のめり予定
 記
 New Orient Express Inc.
 New York Office
 Room 3804 SEAGRAM Bldg.
 375 Park Ave. New York 22
 電話 PLAZA 2-3366
 代表者 Yuza Iseki

GB-3

外務省

要字 5 部
 発電係 系 総第 26641 号
 昭和 37 年 9 月 6 日 20 時 0 分 発

電信課長 (印) 電信案 (分類)
 略 略 第 1089 号 (L.P.F.) (特私) 至急
 大 臣 菅 首相 主管 下リカ局長 起案 昭和 37 年 9 月 6 日
 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長官
 主任 北米課長 起案者 電話番号
 秘書長 至濟局長 下リカ局長 参考人
 二階堂 朝海 米加 経總 北米課
 在 米 朝海 臨時代理 大 公 使 宛 大 平 大臣 發
 総領事
 電 報 在 大 公 使 宛 総領事
 件 名 下リカ局長との会談の件
 ↓
 GB-1 外務省 回覧番号 4656

62102
 62102
 62102

極秘

10部/内
2号

議題(案) 昭和37.9.6
アメリカ局

2 経済問題

(1) ~~日米通商航海条約に関連する問題~~

(1) 通商拡大法問題

(2) 日米O問題

(3) 日米海運問題

(4) 自主規制問題

(5) パイ・アメリカン・シップ・アメリカン問題

(6) 自由化に関連する問題

1 政治問題

(1) 沖縄問題

(2) 日韓交渉

3 国際情勢

(1) 米ソ会談

(2) 軍縮並びに核実験停止問題

(3) 中共情勢

(4) 東南アジア情勢

要写 5部

発電係表 総第 26642

昭和37年9月6日20時0分発

電信課長 (分類)

略平	第 1690 号 (LTP) (特秘) 至急	
大臣	主管	起案 昭和37年9月6日
事務次官	アメリカ局長	
外務審議官	参事官	
官房長官	主任 北米課長	起案者 電話番号 4515
(協議)	総務官 経済局長 米加局長 参事官 北米課長	
(回覧)	参事官 経済局長 米加局長 参事官 北米課長	
在 米 朝 西	大外務 総領事	大平 大臣発
電 報	在	大外務 総領事
件名	ラスク長官との会談の件	
往電	往電 1691 号と同じ	

6 103

電信案(甲) 外務省 37.9.10 回覧番号 4655

1. 本件会談の際わが方が取り上げべき議題として別電第1689号の通りを致し、貴使において異存ない場合は至急半側に通報ありたい。

2. 経済問題については会談時間の制約及び問題の複雑性に鑑み、目下右項目にフォーキングーパーを用意してあるので出来上り次第貴使を通じ事前に先方に提出したい意向である。
自由化に関連する問題とは自由化と日米FCN条約との間の取扱いの問題であるか
目下のところでは、今回はこの問題の所任と指摘する程度と~~考慮すべき~~な見込みである。
その課題として
よき経済問題と~~問題~~を取り上げる理由は、これらが国内的に極めて緊急の関心事と見られているからである。

3. 政治問題についてはわが方が口頭にて

説明を行、国際情勢については主に先方の意見を敵くこととする。

要字 部

発信係 第 26643 号

昭和 57 年 7 月 6 日 20 分 発

電信課長

(分類)

略平	第 7691 号 (LTF) (特 秘)	
大臣	主管	起案 昭和 57 年 9 月 6 日
事務次官	アメリカ局長	200-1023
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 北米課長	起案者 電話番号
官房長		
SEP. 10. 1962		
(協議)	官房長参考	
(回覧)		
在	米 朝 海 大 平	大臣宛
電 報	在	大 公 使 館 総 領 事
件 名	ラスク長官との会談の件	
	貴電才 2006 号に因り	

6 104

電信案(甲) 外務省 回覧番号 4654

1. 先方陪席者は貴電の通り招待する
 二七とされたい わか方は竹内島
 内 両参事官を陪席せしめる

2. 当日の食事(食事のカラールの味付
 (会談の時間と交わすため)
 を含め) 味付位 簡単なものとされ
 たい 念のため

電信案(乙) 外務省

社内 参事官

北子海

電信写

総第 24741 号 昭和 37 年 9 月 7 日 19 時 30 分発

平 第 663 号 主管 情道

大臣 歐長、西、英
政務次官 上田総務官
事務次官 米長、北
外務審議官
官房長

在 各公館長 大平 大臣発
独、英、白、伊、蘭
米、シヤトル、ニュ
ーヨーク、ヴァチカン

電 在 宛

件名 外相隨行する記者に関する件

賞電第 870 号に關し
本大臣の米國、歐州訪問に新聞記者は隨行しない。
独、英、伊、蘭、米、ベルギー、ヴァチカン、ニュ
ーヨーク、シヤトルに發電した。

電信写

総第 26742 26750 号 昭和 37 年 9 月 7 日 19 時 30 分発

平 合 第 1952 号 主管 情道

大臣
事務次官
事務次官
外務審議官
官房長

在 各公館長 大平 大臣発
ドイツ、英、ベルギー、
伊、オランダ、米、シヤトル、
ニューヨーク、ヴァチカン

電 在 宛

件名 外相に隨行する記者に関する件

フランスあて第 663 号電

要字部 3
 発信係 3 総第 26762 号
 昭和 37.9 月 7 日 20時30分発

電信課長 (分派)

略平 第 1702 号 (特秘. 急)

大臣	主管	起案 昭和 37 年 9 月 7 日
政務次官	アメリカ局長	
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 北米課長	起案者 47 内 電話番号 440
官房長		
(協議)	経済局長	
(回覽)		

在 米 朝 協 大 平 大臣宛
 大 公 使 館 総 領 事 宛

電 報 在 大 公 使 館 総 領 事 宛

件 名 ラスクの合議議題に因る件

貴電ヲ 2056 号に因ル

電信案(甲) 外務省 回覧番号 4694

77

1. 経済問題については日内的に極めて
 強い関心あり。また緊急を要するので
 12月の経済合同委員延期するに
 はゆかぬ事情あり。一方、今回の合
 議は同様の事情前に
 議を機会にトキング・ワーキングに提出
 し、ラスクの注意を喚起し
 本大臣に提出せしむ。肝要了、
 おくことか、通商会議に付する、布
 石と云ふと考へるに次第あり。

従って、今回の合議においては本大臣
 より事の重要性を簡単にラスクに強
 調し、ラスクより事前に提出せる
 トキング・ワーキングに付しコメントを

電信案(乙) 外務省

我々の程に止めて差支えないか
要は口次を切りおくことである
之がフロアアップは同局長貴地
訪問の際 貴使において同局長と
同道しホール次者と合談する等
然るべく行われるを希望する
よつて
之は議題は 貴使も^もあり^{あり}リザンダの正式
議題とする要ふまも 一方は当方
の考之ある問題として、先方に提示
あるを希望する ^(然るべく説明を加え)
なお、事務的措置と考之されるも
在序米大使館より本省の訓令に
基くものとして 議題につき照会

あとも先ず貴使より口移者と
通報ある迄 当方^に米大使
館^に通報するに^は差支えない
次第である

要領 3 部

第 26839 号
昭和 37 年 9 月 8 日 16 時 一分 発

略平	第 1704 号 (LTP) (特秘)	
大臣	主管	起案 昭和 37 年 9 月 8 日
政務次官	アメリカ局長	
事務次官	参事官	
外務審議官 SEP. 13. 1962	主任 北米課長	起案者 山内 440
官房長官 SEP. 13. 1962		
(協議)	経済局	
(回覧)		
在	朱 朝博 大公使 朝博 参事官	大平 大臣宛
電報	在	大公使宛 総領事
件名	大臣・ラスク会談の議題 9 件	
	往電第 170 之号と同じ	



11.00

昨日同件
名に送付
した

電信案(甲) 外務省 回覧番号 4689

経済問題については口内的には
 本大臣とラスク長官との会談であ
 り取上げられず形とせざるを得ず
 状況にあるので予めトキંગノーハ
 一と提出しおけばわか方的意
 向は充分先方に伝えられたこと
 よりラスク長官の之に対するコメント
 が得られれば尚更好都合と
 考へてはいる(実際は会談であ
 り取上げられるか否かはその際
 の状況によるべし) 各項目につ
 いてのトキંગノーハは提出する

電信案(乙) 外務省

往電第 26839 号 米側内閣に宛てて
~~米側内閣に宛てて~~
~~米側内閣に宛てて~~ より 事務次官
 米側内閣に宛てて 1702 号のコメント
 を得た。米側は 素直に答へて 旨い
 明かきあり。

特 秘

電信写

総第 26839 号 昭和 37 年 9 月 8 日 16 時 00 分発

暗 第 1704 号 特秘 主管 米北

大臣
 事務次官 経長
 事務次官
 外務審議官
 官房長

在 米 朝海大使 宛 大平 大臣宛

転 在 宛

件名 大臣。ラスク会談の議題の件

往電第 1702 号に關し
 經濟問題については国内的には本大臣とラスク
 長官との会談において取上げた形とせざるを得な
 い状況にあるので予めトーキングペーパーを提出
 しおけばわが方の意向は充分先方に伝えたことと
 なりラスク長官の之に対するコメントが得られれ
 ば好都合と考えている。よつて米側に対しては實

電信写

際に会談において取上げられるか否かはその際の状況によるべきも各項目についてのトーキングペーパーは提出するに付き米側内部にて研究の上会談においてラスク長官より出来るだけ多くのコメントを得度い旨説明おありたい。

GB-7

外務省

要字 2 部
 発信係 久 総第 27150 号
 昭和 37 年 9 月 11 日 17 時 00 分発

電信課 電信案 (分類)

略号	第 100 号 (LTP)	起案 昭和 37 年 9 月 10 日
大 臣	主管 アメリカ局長	
政務次官	参事官	
事務次官	主任 北米課長	起案者 海原 443
外務審議官		
官 房 長		

総務課

在 シトル 高杉 臨時代理 大 平 大臣発
 大 公 使 宛
 総 領 事

電 報 在 大 公 使 宛
 総 領 事

件 名 大臣訪米の件

貴電第 99 号に開し

義交の心 田中議員に先連絡済み

GB-1

外務省

回覧番号

4751

1 34
 課 済
 電 検 閱
 1500

極秘

電信写

総第 27368 号 昭和 37 年 9 月 13 日 15 時 50 分発

階 第 1738 号 特秘 至 主管 経米カ

大臣 閣
政務次官 米長 参
事務次官 北
外務審議官
官 房 長

在 米 朝 海 大 使 宛 大 平 大臣宛

転 在 宛

件名 大臣・ラスク会談の議題の件

往電第1704号に関し
1. 経済関係議題中、(1)通商賦大法問題、(2)貿易問題、(3)日米海運問題、(4)自主規制問題および(5)パイ・アメリカン、シツプ・アメリカン問題に関するわが方トーキング・ペーパーを往電第1739号をもつて別電するから冒頭往電の趣旨により至急米側に手交しおねがひたい。

電信写

総第 27150 号 昭和 37 年 9 月 11 日 17 時 00 分発

平 第 100 号 主管 米北

大臣 閣
政務次官 総
事務次官
外務審議官
官 房 長

在 シアトル 高杉 総領事 宛 大平 大臣宛

転 在 宛

件名 大臣訪米の件

往電第99号に関し
送交えない。田中職員にも連絡済み。

電信写

2 「自由化に關連する問題」については当方からこれを持ち出さないこととした。***よつて往電第1689等のわが方から持ち出す議題からはこれをドロップするより措置ありたい。なお先方がこれにふれた場合の発言ぶりについては追電する。

GB-7

外務省

要写 2 部

発電係 3 総第 27534 号
昭和 37.9.13 日 22時40分発
(分類)

略平		第 1751 号 (LTF) 特47	
大臣	主管	起案 昭和 37 年 9 月 13 日	
政務次官	アメリカ局長		
事務次官	参事官		
外務審議官	北条 謙五郎		
官房長	主任	起案者	電話番号
(協議)		石丸	443
(回覽)			
在 米	朝海	大使館 総領事	大臣発
電報	在	大公使館 総領事	
件名	米自訪米一件		
電信案(甲)	外務省	回覽番号	4815

13 114

昭和 37 年 9 月 14 日

24日の本館とラス7長官の午会及び之にひきつづ
 く会議に出席者4名(本館長 青木 竹内 島田)
 米側3名(ラス7 ハリマン 仁一) 合計7名
~~出席者~~が出席するに及ぶこと。ドレーク
 ホールの本館2号、1号に命令の伝達ありや
 仰如く無きこと及び念のため国連代表部と
 連絡ありし。

GB-3

外務省

要写 2部

発信係 小林 総第 19時30分
 昭和27年9月14日 18時30分発

27611

電信課長 特

第 10 / 号 (LTF)

大臣 秘書長	主管	起案 昭和27年9月14日
政務次官	アメリカ局長	
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 北米課長	起案者 電話番号 443
官房長		
(協議)		
(回覧)		
在 ショル 高杉 大外務 総領事	大臣発	
電 報	在	大公使 総領事
件名	大自訪米の件	
電 文	電文93号及び貴信大才247号に附し	
電信案(甲)	外務省	回覧番号 4846

14-76

冒頭書信に83日程案と冒頭書信に送付の博覧会例
 作成にかかる日程案との向の相当の懸隔ありとす。
 当方の本望は以下の通りにつき、要は博覧会例
 と連続の上、可能限り当方本望の線にて日程作
 成ありとす。

1. 15日到着の際の空港記者会見は16:40を希望
 あり(17:00迄待て理由は特々ありと思われ)
2. 空港での行事は出陣より簡單にす。
3. 16日博覧会の見学は(10:30より)としたい。
 (貴電の通り)

GB-3

外務省

要字 部 発電係 総第 28287 号
 昭和37.9.21 日 15時 57分 発

電信課 電信案 (分類)

略 略 平	第 1819 号 (LET)	起案 昭和37年 9 月 20 日
大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長	主管 米局長 主任 米北	起案者 池田 電話番 5347
在 米 朝 海		
臨時代理 大 公 使 宛 総 領 事		池田 大臣 宛
電 報 在	大 公 使 宛 総 領 事	
件 名	大平大臣訪米に關する新聞論評の件	
ソ連東京848号 (総番20767号) 転電		

21 21



GB-1

外務省

回覧番号

4930

秘

電信写

総第 29814 号 昭和 37 年 10 月 4 日 18 時 24 分発

階 第 1936 号 主任 米北

大臣	八木大使	議長
政務次官		
事務次官	総	経米カ
外務審議官		
官房長		

在 米 朝 海 大 使 宛 池田大臣臨時代理 大臣宛

転 在 宛

件名 第 2 回 日 米 貿 易 経 済 合 同 委 員 会 の 件 (夫 人)

貴電第 22 / 7 号及び往電第 1868 号に關し
 4 日行なわれた (/ 日行り予定が都合で 4 日に
 延期) 出席予定閣僚夫人の最初の非公式打合せ会
 においては買頭貴電による日程は全体として結構
 なるも、5 日午後大統領夫人のお茶がある場合は
 同日の議会見学及びそれに伴う午さんはなるべく
 簡単にとりあげホワイトハウスに向う前に一旦ホ

GB-6

外務省

電信写

テルに帰り休息したきこと、及び宮沢経華長官夫人 (因みに同夫人は英語に堪能である) はいずれかの日に貴地の極く普通の中学校乃至高等学校を参観したきことの二点につき希望が表明された追つて以上お含みの上然るべく準備ありたい。

GB-7

外務省

要写 部

発信係 第 30017 号

昭和 37 年 10 月 5 日 19 時 10 分 発

(分類)

略号 平	第 224 号 (L.P.F.)	記号
大臣	主管	起案 昭和 37 年 10 月 5 日
政務次官	アメリカ局長	
事務次官	参事官	
外務審議官	主任 北米課長	起案者 竹内 電話番号
官房長		
(協議)	政経局長 情報部	
(回覧)	参事官 報告課	
	西館課長	
在	オランダ 宇崎 大使館 総領事	池田大臣 代り
電報	在	大公使館 総領事
件名	ハリマン次官補発言等の件	
	法眼局長へ 安藤より	

電信案(甲)

外務省

回覧番号

5193

5 - 89
1830



25225

大臣帰りの際記者より質問が予想
されるので 一般情事及 224号及び 226号
日中貿易再開の
中のハリマン発言及び 日韓 3億ドル台
並に 米口の自動車域外閉鎖停止に因り
て 各紙談話の部分が 大臣にお見せあり
この 念のため

電信案(乙)

外務省

政経局長(宇崎)の報告(池田)の件

255 25498
7222
系 181

25498

大 臣 閣 下 へ
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件

ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件
ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件

管 務 科 (S) 兼 計 画

電 信 写

総 第 30017 号 明 和 37 年 10 月 5 日 19 時 10 分 発

平 第 224 号 至 急 主 管 米 北

大 臣 閣 下 へ
政 務 次 官 歐 長 情 長
事 務 次 官 歐 参 情 道
外 務 審 議 官 歐 西
官 房 長

在 荷 蘭 皇 宮 大 使 宛 池 田 大 臣 臨 時 代 理 大臣 発

転 在 宛

件 名 ハリマン 次 官 補 発 言 等 の 件

法 眼 局 長 へ 安 藤 より
大臣 帰 国 の 際 記 者 より 質 問 が 予 想 さ れ る の で 一 般 情 報 224 号 及 び 226 号 中 の 日 中 貿 易 に 関 す る ハリマン 発 言 及 び 日 韓 3 億 ド ル 台 で 妥 結 説 並 び の 部 分 に 米 国 の 自 動 車 域 外 輸 送 停 止 に 関 す る 武 内 次 官 申 入 れ (オ ラ ン ダ 宛 往 復 第 223 号) の 点 を 大 臣 に お 見 せ お き 請 う 。 念 の た め 。

GB-6

外 務 省